



QI+3オンラインガイド

目次

QI+3の新機能について.....	1	組替えアシスタント.....	28
使用上の注意.....	3	ページを逆順に.....	32
インストール方法.....	7	トリム&シフト.....	32
シリアル番号の入力について.....	8	裁ち落とし.....	36
QI+ の機能.....	9	空白ページの挿入.....	38
注意事項.....	10	サンプル書類.....	38
カスタムバックグラウンドの使用.....	11	文字列 / 番号を貼り付ける.....	39
QI+ コントロールパネル.....	12	マスキングテープを貼り付ける.....	41
環境設定.....	13	文字列 / 番号を剥がす.....	42
操作の記録.....	14	トンボを剥がす.....	43
機能ガイド.....	16	マスキングテープを剥がす.....	43
ページ割付.....	19	手動面付け.....	44
トンボについて.....	23	面付け情報.....	46
丁付け.....	24	PDF/X の扱い.....	48
2ページ結合.....	24	自動化シーケンス.....	49
偶数 / 奇数ページシャフル.....	25		
ページ組替え.....	26		

著作権

Copyright 1998 ~ 2011 A.W.Inston and Quite Software Ltd.

このマニュアルは Quite Software Ltd、及び国内総販売代理店 ウエノ株式会社
に帰属します。

本書の一部あるいは全部を、Quite Software 又は、ウエノ株式会社からの事
前の承諾を得る事なく複製する事を禁じます。

又製品に付属のソフトウェア使用許諾契約書に記載の条件下で、御使用下さい。

注 意

本製品、及びソフトウェアは、修正の為予告なく変更する場合があります。

それにともない、本書、及び内包物に変更される場合もあります。

あらかじめ御了承下さい。

Macintosh は Apple Computer の登録商標です。

WindowsXP、WindowsVista、Windows7 は、Microsoft Corporation の
登録商標です。

Acrobat、AdobeReader、InDesign は Adobe Systems,Inc. の商標または
登録商標です。

本書に記載されている、他社商品名は、各社の商標です。

QI+ 3 の新機能について

タイルページ

- ・元のページを分割して、複数の別々のページに分ける事ができます。
- ・InDesign CS5 の新機能である「複数のページサイズ」によって作成された PDF では、「ワイドページを分割」する機能を使い、横長のページを分割する事ができます。
- ・面付け済みの PDF を分割する事ができます。
- ・オーバーラップ部分や裁ち落としの設定を追加する事ができます。

ページツール

- ・ページの複製を使い易くして、その配列方法を選択する事ができます。
- ・縦長や横長のページを含む書類を、自動的に判別して回転させる事ができます。
- ・ページに対する「移動・回転・削除」機能が追加されました。(自動化シーケンス対応)

ページサイズ

- ・ページサイズの調整が簡単にできます。
- ・縦横比を変更または、固定して拡大や縮小を行う事ができます。
(拡大時に白色スペースを追加する設定も可能です。)
- ・詳細設定により、裁ち落としマージンを保持する設定が可能です。
- ・指定のサイズにページを拡大・縮小できます。
- ・ページサイズの情報をレポートできます。

文字列 / 番号を貼る

- ・ページ番号 / ファイル名 / 日付 / 書類タイトルを選択形式で貼り付ける事ができます。
- ・詳細設定オプションを使用することで、ページ番号を増加させる増量分と、逆に減少させる値の設定が可能です。
(10,20,30 又は 9,8,7)
- ・ページ番号を繰り返す設定ができます。(001,001,002,002)
- ・ページ番号を指定ページ分スキップできます。

挿入ページ

- ・PDF ファイルをページとして挿入できます。(複製も可能)
- ・ファイル又は空白ページを挿入する条件として、指定したページのサイズや、その他のサイズを指定する事ができます。
- ・最終ページから数えたページ番号の指定ができます。例：「last-2」は、最後から 2 ページ目に挿入されます。

ページ割付と丁付け

- ・「マージン・スペースの詳細設定」に裏面のミラー機能が追加されました。

トリムシフト

- ・クリープアシスタント機能により、中綴じ面付け時のページシフトを簡単に設定できます。

ページ組替え

- ・ページ組替えでページを複製できます。またその場合のファイルサイズを減少します。
- ・組替えアシスタントは同一ページの指定に対応しました。
- ・組替えアシスタントは8×8のレイアウトに対応しました。

手動面付け

- ・「元に戻す」機能が追加されました。

処理速度の向上

- ・Mac OSX では、ページ数の多い書類に対する処理速度を向上しました。
- ・シーケンスの登録数が多い場合に、シーケンス表示と編集処理の速度を向上しました。

PDF/X サポート

PDF/X-4

PDF/X-5

ISO 15930-7:2008

ISO 15930-7:2010

ISO 15930-8

ISO 15930-8:1010

使用上の注意

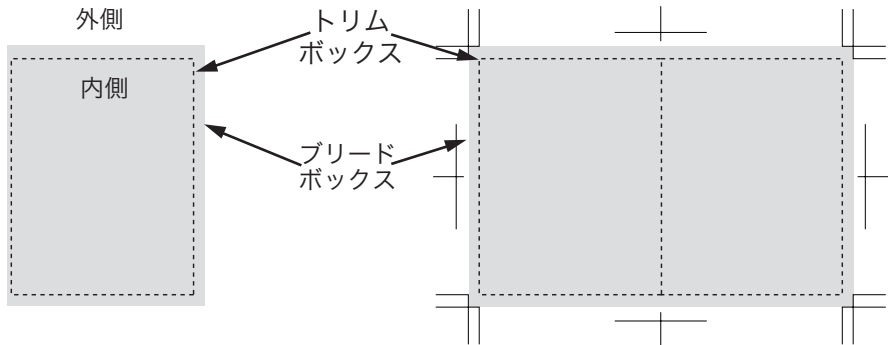
Tips

QI+ は Acrobat の環境設定 > 一般で設定された情報で動作します。

単位として、インチ、ミリ、ポイントを選択します。

文字サイズをポイントとした場合、QI+ でもポイントで表示されます。

- ・ 数値を入力することができる画面上で、"/" キーの分数を入力することができます。(例、3/8 を入力すると、0.375 に変換されます)
- ・ ページの挿入や削除が必要な場合、Acrobat の標準機能を利用します。
- ・ 空白ページを挿入する必要がある場合には、QI+ の空白ページ挿入が有効です。
- ・ 裁ち落とし領域を定義する時、外側か内側かを定義する必要があります。
外側は、最終的なシート上に表示される領域です。
内側は、面付け時に計算され並べられる領域です。



内側・外側は、トリムボックス・ブリードボックスと呼ばれる目に見えないボックスに囲まれています。

トリムボックス・ブリードボックスが同じならば、そのページは、裁ち落としを定義されていません。

面付けの計算は、内側の裁ち落とし (トリムボックス) を使います。

裁ち落とし外側は、トンボと重なることがあります。

この図では、QI+ の特徴を示します。隣り合うページの裁ち落としが、上に重なる事を回避します。

[手動面付け] を除いて自動的に処理され、裁ち落とし部分が重なると予想され

る部分で、除去しておく必要はない事を意味します。

PDF における 5 つのボックス

PDF のページは、5 つの目に見えないボックスを持っています。

それらは任意ですが、特定のボックスが不足している場合、何を扱うかについて厳密な規則があります。

- ・ **メディアボックス**は、オリジナルのページサイズと考えられます。
これは、変更できない事がありますが、トリム & シフトの為に必要であれば、QI+ は、増加させる事もできます。
- ・ **クロップボックス**は、ページが切り取られたサイズです。典型的な例としては Acrobat のトリミング機能です。
クロップボックスは、スクリーン上で見る事ができるので、Acrobat で非常に重要です。
クロップボックスの外側の領域は、目に見えません。
トリム & シフトは、クロップボックスも調節します。
クロップボックスがない場合、メディアボックスを使用する必要があります。
- ・ **トリムボックス**は、面付けを整える裁ち落としの内側です。
従って、スクリーン上でどのように表示されていても、面付けを行う上では最も重要なサイズとなります
トリムボックスがない場合、クロップボックス、又は、メディアボックスと同じ扱いです。
- ・ **ブリードボックス**は、裁ち落とし外側の領域です。
ブリードボックスがない場合、トリムボックスが使用されます。
- ・ **アートボックス**は、面付けには使われず、QI+ でも利用されません。

自動で裁ち落とし設定するアプリケーションの場合

InDesign のようなアプリケーションは、裁ち落とし情報を自動的に設定する可能性があります。

ページをトリミングする場合は、クロップボックスを設定します。トリムボックス、及びブリードボックスは変更しません。

QI+ は、2 つの方法で補助します。

- ・ トリム & シフトを使う時、QI+ は、裁ち落とし、及びトリム情報を取り除きます。
環境設定 PDF/X の扱い「保持」が選択される時、トリムボックスは、クロップボックスと同じ状態にします。
- ・ QI+ 2 以降において、ページが裁ち落としを含む場合、各面付け上で警告メッセージを表示します。

注：トリムボックス、及びクロップボックスが等しい時や、バッチモードの自動化シーケンスを実行している時には警告メッセージは表示しません。

面付けされたデータを印刷業者に出力依頼する場合、印刷業者がどのような面付けを行なうか事前に確認して下さい。印刷業者は、独自の面付け形式を取る場合がありますので、必ず御確認下さい。

- ・ レーザープリンター又はそれに類似したプリンターで両面出力する場合、印刷済のページを両面印刷に使用すると、プリンターに損傷を与える可能性があります。
- ・ 面付け機能を使用すると、PDF ファイルに設定してあるブックマークやリンク等のほとんどの機能は壊れるか失われます。また、フォームフィールドも消失します。
- ・ Acrobat タッチアップツールを使用して、面付けされた PDF 上で文書を取り出したり、削除を行ったり、ページ番号又はマスキングテープを削除する事はできません。
- ・ Acrobat では文書サイズの制限があります。Acrobat4.0J では 200x200 インチ (5080x5080mm) です。
大きいサイズの面付けを行う場合は注意して下さい。
- ・ [トリム&シフト] と「裁ち落とし」は元の文書サイズ以上にできますが、結果は出力して確認される事をお薦めします。
- ・ 面付け後のファイルは、非常に大きなファイルになりますので、プリントできなくなる可能性があります。[面付け情報] から、抽出を使用する事でファイルを軽くできます。

インストール方法

動作環境

Windows 環境 WindowsXP 以上
(32ビット・64ビット双方で動作いたします。)

Macintosh 環境 Mac OS 10.4.8 以上の OS が必要です。
(クラシック環境では動作いたしません。)

Acrobat 環境 Adobe Acrobat8.0 以上
(Adobe Reader では動作いたしません。)

QI+ は、Adobe Acrobat のプラグイン形式です。あらかじめ Windows 及び Macintosh 上に Adobe Acrobat をインストールしておく必要があります。

QI+ プラグイン及び、オンラインマニュアル (PDF) は Adobe Acrobat のプラグインフォルダに、入れて下さい。フォルダの階層は、Acrobat をインストールしたフォルダの直下にあります。Macintosh では Plug-ins と呼ばれ、Windows では下線の付いた plug_ins と呼ばれます。

Acrobat が再起動されると、プラグインのメニューに QI+ が追加されます。QI+ の画面上にある「？」マークをクリックして、オンラインマニュアルを見る事ができます。

Acrobat を再起動して下さい。

新しいメニューが Acrobat のメニューに現れます。

シリアル番号の入力について

ライセンスボタンをクリックし、名前、会社名、及び2つの番号を入力して下さい。

シリアル番号は、次のようなものです。

例 1234-5678-1234-5678

プライベートコードは、1234 といったような4桁の番号です。

ライセンスは初めてQI+を作動させた時に表示され、QI+のコントロールパネル画面上の「??」をクリックする事で、いつでも表示する事ができます。

デモモードでの起動について

プラグインをインストールするとデモモードが選択できます。

デモモードでは、面付けされた全てのページに「x」が文書の全面に大きく記されますが、QI+のほとんどの機能が使用できます。

重 要

「x」マークは消せませんので、オリジナルの書類を、壊してしまわないようにファイルは保存しないで下さい。



QI+ の機能

QI+ は様々なユーザーに有効なツールとなるように設計されました。プリントされた用紙を二つに折たたみ [ブックレット] にする一般企業から印刷業者まで、QI+ は Adobe 社の Acrobat を使用して作業している多くのユーザーが使用できるツールです。

QI+ では、Acrobat のセキュリティを使用している PDF 以外なら、ほとんどの PDF ファイルが面付け可能です。

注：セキュリティの「文章の変更」に、チェックが入っていると、開く事はできますが変更できません。

モニター画面上で、プレビュー付きの PDF ファイルが作成でき、印刷前に正しい配置がされているかどうかを確認できます。

面付けの結果は PDF 書類ですので Acrobat の機能も利用でき、最終結果を保存しておく事ができます。

QI+ のある部分（ページ組替、ページ割付）は複雑な作業を行ないます。

面付けを実行する前に、一般的な手法として紙を折りページ番号を付けた「折丁」を作成しておいて下さい。

各台紙は左から右にそして上から下に面付けされます。[ページ組替え] を使用し、折丁の順番にページを再配列します。

ページを 90・180・270 度に、回転させる事ができ、必要であれば白紙を追加する事ができます。

[ページ組替] を使用し、ページの順番と向きを変更した後に、[ページ割付] を使用します。

[ページ割付] を使用して、トンボの付加や、余白・ドブ（ページ間のスペース）の設定に使用できます。

ここで、事前にカラーバーや、トンボが付いている台紙、（カスタムバックグラウンド）を選択すればオリジナルの面付けを行えます。

注意事項

QI+ を使用する上で重要な事項として、印刷物を理解する事は非常に重要です。QI+ はどのような PDF ファイルにも使用できますが、通常は設定されたリンクやブックマークは失われます。

新規書類が操作ごとに作成されますが「名前を付けて保存」する事を、忘れないで下さい。

全てが予測通りである事を確認する為に、サンプルを印刷して注意深く評価して下さい。

Acrobat の TouchUp ツールは使用しないで下さい。

QI+ で行なった変更の移動や、検索が不可能になります。どうしても使う必要がある場合、面付けを行なう前に使用して下さい。

テキストを含めページサイズを拡大縮小する際、ビットマップ画像が含まれている場合、拡大が原因で品質は劣化する場合があります。

[手動面付け] は複雑で時間が掛かります。できる限り自動ツール、特に [ページ割付] を使用して作業が行なえるかどうか、検討してみてください。

トンボをページの端に付けるだけでも、[ページ割付] が、使用できる事が理解できるでしょう。(現状ではセンタートンボは、付加できません)

[ページ組替え] の入力できる最大文字数は 255 までです。

カスタムバックグラウンドの使用

通常、面付けを白紙のバックグラウンド上で行ないます。しかしあらかじめ作成されたカスタムバックグラウンドページでの面付けも行えます。

カスタムバックグラウンドは、面付けに会社のロゴや色玉を事前に入れておく事ができます。

初めに、カスタムバックグラウンドの準備をしてしまえば、白紙上で作業すると変わらないほど簡単に作業できます。

カスタムバックグラウンドは [ページ割付] [丁付け] [手動面付け] と [空白ページの挿入] 等で使用できます。

これらは、ページサイズのリストから選択できるようになっています。「カスタムサイズ作成」を選択する事で利用できます。

「ディスクに保存されている既存の PDF 書類から新しいカスタムバックグラウンド」を選択します。これにより、「カスタムバックグラウンドの設定」の画面が表示されます。[環境設定] からの設定も行えます。

通常作成したカスタムバックグラウンドには、わかりやすい名前を付けておきます。

カスタムバックグラウンドに名前を付けなければ、Acrobat が閉じられた時に保存されません。

ファイル名を、[ブラウズ] をクリックし、カスタムバックグラウンドに使用する PDF ファイルを選択して下さい。

カスタムバックグラウンドの選択肢

複数のページを含む PDF をカスタムバックグラウンドとして設定するだけで、異なるバックグラウンドを設定できます。(ペアは繰り返されます)

異なるサイズ、内容等のカスタムバックグラウンド台紙を含んだ PDF ファイルを作成でき、異なるページ用に異なる名前を設定できます。

台紙の設定後、その後繰り返される台紙の設定ができます。繰り返される台紙は白紙でもかまいません。

台紙にあらかじめ番号があれば、一度しか使用しない台紙の順序を設定できます。これら全ては、「カスタムバックグラウンドの設定」を使用して簡単に選択されます。

QI+ コントロールパネル

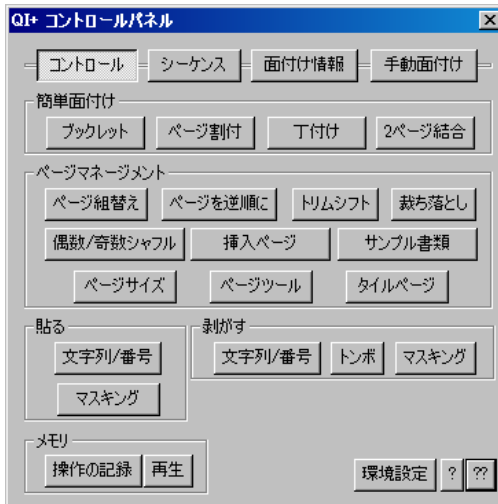
QI+ コントロールパネルは、QI+ が提供する全ての機能を使用する為に、できる限り簡単に設計しています。全ての機能は、「プラグイン> QI+」メニューからの操作も行えます。

コントロールパネルには多くのボタンがありますが、必要とする機能を見つけ易いようにグループ分けされています。

コントロールパネルの上部にはメニューボタンの [コントロール]・[シーケンス]・[面付け情報]・[手動面付け] 機能を備えています。

この一連のボタンは、相互に切り替えができるようになっています。

下図を参照して下さい。



[手動面付け] [面付け情報] は表示を切り替えます。

[閉じる] ボタンはウィンドウを閉じます。

コントロールパネルには [??] が付いたボタンがあります。

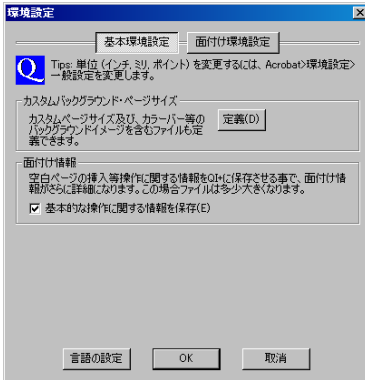
このボタンで、ライセンスとシリアルナンバーを確認できる「QI+ について」の、ダイアログを開きます。

[詳細情報] をクリックすれば、アンインストールやオンラインガイドのファイル名の確認が行えます。

「？」ボタンを押せばオンラインガイドを開きます。

環境設定

環境設定は、「編集 > 環境設定 > QI+」を使用するか、QI+ コントロールパネルの [環境設定] を使用して設定します。



基本環境設定

カスタムバックグラウンド・ページサイズ

カスタムページサイズや、作成したカスタムバックグラウンドの設定ができます。

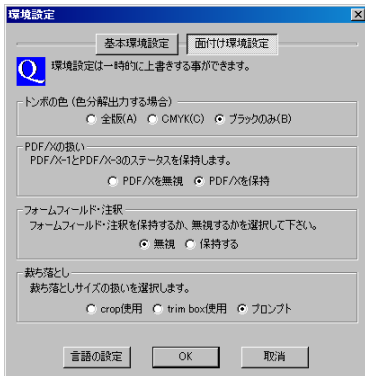
面付け情報

面付け情報を書類に保存するかどうかの選択ができます。

トンボの色

QI+ 上でトンボを追加する時の、カラーが設定できます。

- ・「全版」
全ての版にトンボが付きます。
- ・「CMYK」
CMYK 版にトンボが付きます。
- ・「ブラックのみ」
ブラック版のみにトンボが付きます。



面付け環境設定

PDF/X の扱い

PDF/X 情報を無視するか保持するか選択します。

フォームフィールド・注釈

フォームフィールドと注釈を無視するか保持するか選択します。

裁ち落とし

裁ち落としに使用するラインをどのボックスを使用するか選択します。

参照：PDF における 5 つのボックス

操作の記録

QI+ の機能の多くは [操作の記録] を使用して単機能の為の全設定を保存でき、名前を付ける事ができます。

例えば、ページ割付を、A4 で [ページ割付] が 2×2、そしてトンボを付ける。というページレイアウトの設定を、繰り返し使用したいときに、これを記憶しておく為に、次のステップを行なって下さい。

1. [ページ割付] をクリックし、必要な数値を記入して下さい。
2. [ページ割付] を作成する為に、ステップを完結させて下さい。完結しないと正確な数値を保存する事ができません。
3. 面付けのメニューもしくは、面付けコントロールパネルから [操作の記録] を選んで下さい。
4. [ページ割付] の処理のタイプが表示されている事を、確認して下さい。
5. 処理の名前を入れて下さい。例えば「2×2 A4 トンボ」の様に、内容を把握でき、しかもできるだけ短い名前を付けて下さい。
6. OK をクリックして下さい。これで処理は記録されました。同じ名前が既にあれば、再度別の名前を付けて下さい。
7. 一旦設定が保存されれば [再生] を使用する事で繰り返し使用できます。削除を行う時は [削除] を使用して下さい。

注：最後の処理記録について

処理を再実行する前か、Acrobat を閉じる前に保存できます。

[ページ割付] を実行し、[丁付け] を実行し、[ページ割付] から保存を行なうと、保存されるのは、最後に使用された丁付けの設定となります。

「剥がす」（ページ番号を剥がす、マスキングテープを剥がす、トンボを剥がすなど）の設定も同じです。

記録の再生

〔操作の記録〕で処理の記録後、QI+ コントロールパネルから、記録を再生させる為に〔再生〕を使用します。

〔再生〕は処理を完結させません。代わりに処理を通常の方法で行なおうとする際に、一連の手助けをします。

ほとんどの場合〔OK〕や〔次へ〕を2～3回クリックする(又は、単に Return キーを押す)だけでコマンドを再生する事ができます。

一度、〔再生〕処理のウィンドウを開くと、閉じる必要はありません。処理と名前を選んで〔再生〕をクリックすると記録の再生ウィンドウは開いたままになっていますので、一連の処理が素早くできます。

注：ページ番号を使用する処理には注意して下さい。実際の番号は通常保存されたものではありません。現在のページ番号が使用されます。

〔マスキング〕と〔手動面付け〕の記録の再生処理では、既に開かれている画面に対して処理を行うようになっている為に、特別な注意が必要となります。

機能ガイド

ブックレット

[ブックレット] 機能は、面付けの一般的な処理、(ブックレットの作成) に対応するように設計されています。

- ・ コントロールパネルから、[ブックレット] のボタンをクリックするか、又は、メニューの「プラグイン> QI+ >ブックレット」を選ぶ事で、[ブックレット] を実行できます。
- ・ ブックレットを作成する為には PDF ファイルを開く必要があります。
- ・ ブックレットを実行すると新しい書類が作成され、各書類の台紙には要求された 2 ページのオリジナル書類が入っています。

ブックレットの作成 - シートサイズを選択

割り付ける書類のシートのサイズ、又は (カスタムバックグラウンド) を選択して下さい。

1. オリジナルの 2 ページを貼り付けるのに、十分な大きさのサイズを選択できます。
2. US レターサイズもしくは A4 の特定ページサイズを選択できます。
3. 元の書類のサイズの変更を行います。更に倍率表示も行います。

異なるページサイズを選択する時、必ず横か縦の、どちらか適切なものを選んで下さい。ブックレット書類は、余白の大きさにより変化します。

オリジナルの書類が、異なったページサイズであるなら、最も大きなページが全ての計算を行なう為に使用されます。またカスタムバックグラウンドも選択できます。

ブックレットの作成 - 綴じ方の選択

- ・「連続」はページが単に 1,2,3,4.... というように継続する事です、通常はホットキスで端に沿って止めたり、パンチ穴をあけてファイルするだけで、半分に折りたたみません。
- ・「中綴じ」は最も一般的なブックレットのタイプで、ほとんどのユーザーが選択します。書類が全て印刷されると単に半分に折りたたみ、番号は前から後ろに続きます。書類が 4 の倍数でない場合は、最高で 3 枚の空白ページを追加します。
- ・「平綴じ」はページのグループを作り、各グループごとに半分に折ります。書籍を例にあげると、それぞれのグループを最終的に綴じます。例えば、最初のブックレットが 1 から 32 ページで、次が 33 から 64 というように続いた場合です。

この方法はページ数のある書類で、一度に折るには厚すぎる場合に好都合です。折丁の数量を選ぶか、ページのグループの量を選びます。上記の場合でしたら 32 ページ（両面印刷の場合は 8 枚の紙になります）となります。最後の折丁を調整する為に、ページの追加を行うか、単に 4 の倍数のページにもできます。

- ・「積み重ね」では印刷したシートを半分に断裁します。一枚の半分を重ねていくだけで、順番になります。通常これは両面印刷ですが、片面印刷の積み重ねのオプションもあります。

詳細設定オプション

- ・シート周囲のスペース、トンボを追加できます。

設定の変更ボタンで以下の選択ができます。

- ・トンボの色（色分解出力する場合）
- ・フォームフィールド 注釈を無視及び保持の選択
- ・PDF/X ステータス 無視か保持の選択
- ・裁ち落としサイズの扱いを選択（crop 使用、trim box 使用、プロンプト）

ブックレットの作成 - 表裏

1. 互い違い（表、裏、表、裏…）

ページを順番通りにおき、裏表を逆さまにします。両面印刷によってはこれを行う必要があります。

2. 最初に表面、次に裏面

一つの書類を先に表のみ作成し、それから裏のみを作成します。

プリンターに何枚のシートを入れるのか、数える場合有効です。

紙が無くなったら、裏をプリントする為にプリントされたシートを戻して下さい。

3. 表と裏で2つの別の書類を作成

2つの書類を作成します。1つは表で、後1つは裏です。この方法が最も柔軟性があります。

プリンターによってはプリントする時に中央に出力しませんので、表と裏が揃いません。これは書類の表と裏を別々に作成し、[トリム&シフト]機能を使って一方を調整する事により解決できます。

[トリム&シフト]を使用して紙の厚みにより、書類の内容が移動するせり出し、(クリープ)を調整する事ができます。

ブックレットの作成 - ページ揃え

ページがいつも最後のシートに収まるとは限りません。これは元の書類が色々なページサイズを使用していれば常に起こる事ですし、2つの異なる縮尺がされたページを、特定のシートサイズを選択した場合にも起こります。全てのページが同じサイズで、シートサイズを自動的に選ぶようにしてあれば、決して起きない問題です。

またページが合わない場合、どのように調整されるべきかを選択できます。「ページ揃え」で、2通りの方法が示されています。画面上の図では、それぞれの選択でどのようになるのが、わかるようになっています。

1. シートの各半分ページをセンタリング。これは通常最もよい選択です。

ページの大きさが足りない場合、全体に同じサイズの余白を持てます。

2. 各ページは縦方向にセンタリングを行います。これは中綴じ、平綴じにとっ

て「背」と考えられています。ページを出力後にトリミングを行う場合便利です。

ページ割付

ページ割付は 3 段階のウィザード形式で設定を行います。

1. 最初のウィンドウでは、面付け後のシートの余分なスペースを除去するのかどうか、割り付けするページを原寸のまま配置するのか、拡大縮小して配置するのか等を決定します。
2. 次のウィンドウでは、トンボとマージンの設定を行います。

マージンの設定は、左・上・右・下のマージンそれぞれの数値を入力できます。またレイアウトされたページ間のスペース（垂直、水平）も指定できます。これには 1 つの数値、またはリストを入れる事ができます。リストの場合は数字を区切るのに半角スペースを用いて下さい。（例…図 1）

トンボの追加

[カスタム] を選択すると「カスタムトンボ」のダイアログから設定できます。

[スタイルの変更] を使用すると、トンボのスタイルを 5 種類の中から選択できます。（詳細は「トンボについて」を御覧下さい）

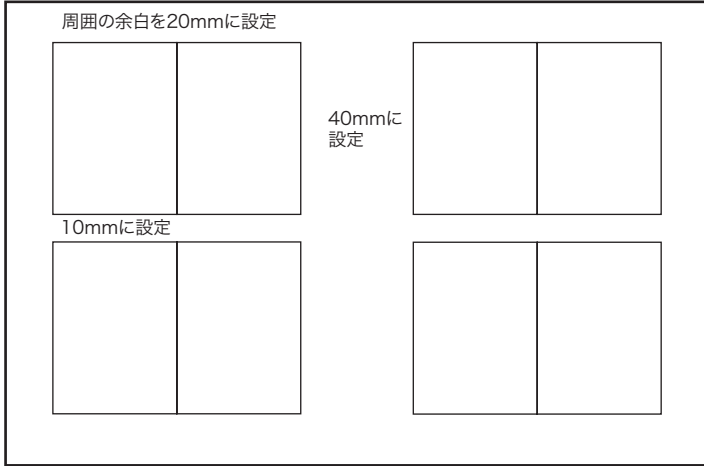
3. 最後のウィンドウでシートサイズ、向き、ページのレイアウトを指定します。ここで、裁ち落としを行うかどうかの選択画面が出ます。
[設定] をクリックすると、面付けレイアウト位置の設定ができます。

設定の変更ボタンで以下の選択ができます。

- ・トンボの色（色分解出力する場合）
- ・フォームフィールド 注釈を無視及び保持の選択
- ・PDF/X ステータス 無視か保持の選択
- ・裁ち落としサイズの扱いを選択（crop 使用、trim box 使用、プロンプト）

選択されたシートのサイズ、向き、ページレイアウトによってウィンドウの下に、実際のページ配列や必要になるシート数が表示されます。

[終了] をクリックすると割付作業が開始されます。



図の配置にするには、環境設定の単位がmmとして次のように設定します。

マージン	上	20
	左	20
	下	20
	右	20
横方向のスペース		0 40 0
縦方向のスペース		10

図1

ページ割付注意点

1. 最終画面で、レイアウトやページサイズといったオプションを変更すると、画面の下のレイアウトが随時変化します。
2. PDF ファイルからカスタムサイズ作成を使用して、バックグラウンドを自動的に適用する事ができます。
(全てのバックグラウンドページは割付工程の為、同じサイズでなければなりません)
3. [カスタム] をクリックしてトンボサイズと距離を変更できます。[スタイルの変更] をする事でスタイルを選択できます。
オプションで、ページの周囲にフレームを追加できます。
4. ページサイズが異なっても、ページ割付の特徴を使用できます。
「ページの拡大縮小を許可」を選択して2列3行のような固定レイアウトを指定すると、選択された縮尺は、最初のページが基本になります。固定レイアウトを選択しないと、ページはできる限り合わせられます。
5. ページレイアウトは、常に左上角から始まり、左から右にそして上から下の順で行なわれます。(バージョン 2.0 以降では配置位置を選択できます。)
6. ターゲットシートより大きなくつかのページが選択されると、シートのサイズは大きくなります。その際は警告が出てキャンセルできます。
7. 1列1行のレイアウトを選ぶと、ページの周りにマージンやトンボを付加する機能が使用できます。
8. バックグラウンドシートを選択して、「シートの周囲のスペースを除去」を選択しているとバックグラウンドの一部が無くなります。

[ページ割付]と[丁付け]の機能はトンボを使用します。
 これらのマークは、印刷されたシートのどこをカットするか、どこを折るかを示す為のものです。

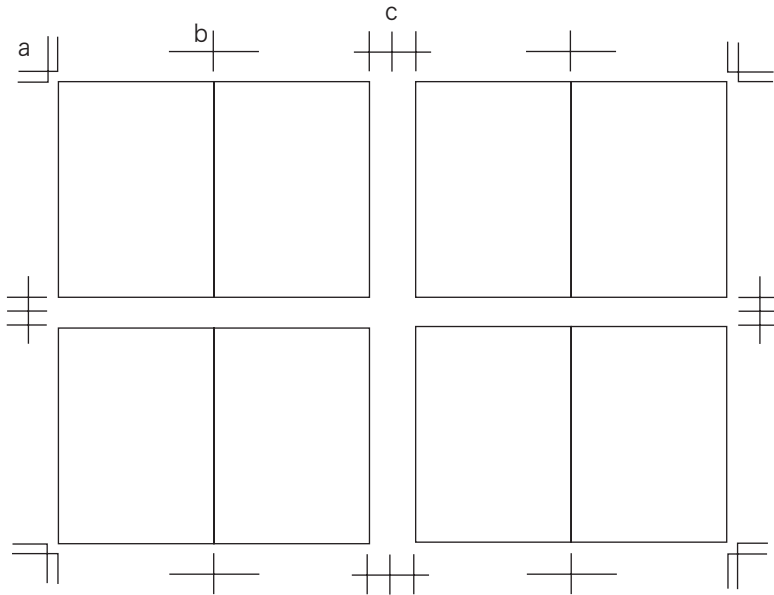


図2

この図には、大きめに描かれたトンボが示されています。例えばaと記された角に通常のトリムマークがあります。

cと比較すると、bの様な場合には、お互いにトンボが重なって縦方向に一本、水平に一本となります。

cの間隔は、「マージンおよび余白の詳細設定」のページ間のスペースに影響されます。

注意：49.9mm以上ページ間のスペースを開けると独立したトンボに変わります。

トンボについて

1. [ページ割付] と、[丁付け] のトンボのサイズは、[カスタム] のボタンを使用して変更できます。
2. 初期設定のトンボのサイズは次の通りです。

トンボはページの端から 3 ミリから始まり、その長さは 10 ミリです。トンボは、その一部でもページから 3 ミリ以下であれば、配置されません。これはデフォルトサイズのトンボをページの縦か横に表示しようとする場合、余白は少なくとも、20 ミリが必要である事を意味します。

3. [スタイルの変更] を使用する事でトンボのスタイルが選べます。
現在 5 つのスタイルから選択ができます。
4. 分版を行なう時、トンボを含んだ版の選択は重要です。トンボは「ブラックのみ」に設定されているか、「CMYK 版」「全ての版」に設定されている場合があります。

**コントロールパネルの【環境設定】を使用して選択できます。
設定の変更【設定】ボタンでも選択ができます。**

特別なトンボの組み合わせで、面付けをする場合があれば、ページ割付けを使用する方が有効です。

その後作成されたページの面付けを行なって下さい。

5. 書類の裁ち落とし部分はトンボと重なってもかまいません。裁ち落とされるのは、裁ち落とし部分のみです。（「裁ち落とし」参照。）
6. トンボは削除できます。「トンボを剥がす」機能により全てのトンボが削除されます。

丁付け

丁付けの機能を使用すると、1つのシートに同じ書類をいくつも並べる事ができます。QI+の丁付け機能は、複数ページの書類でも処理する事ができます。

丁付けもページ割付と同様の、3段階のウィザード形式で設定を行います。設定する項目はページ割付と同じです。

1. 最初のウィンドウでは、丁付け後のシートの余分なスペースを除去するのかどうか、丁付けするページを、原寸のまま配置するのか、拡大縮小して配置するのか等を決定します。
2. 次のウィンドウでは、トンボとページ間の、マージンの設定を行います。トンボ、マージンともに、詳細設定で細かな数値設定が行えます。「割付け」を参照して下さい。
3. 最後のウィンドウでシートのサイズ、向き、ページのレイアウトを指定します。

選択されたシートのサイズ、向き、ページレイアウトによって、ウィンドウの下に実際のページ配列や、必要になるシート数が表示されます。[終了]をクリックすると割付作業が開始されます。

2 ページ結合

[2 ページ結合] 機能は、PDF ファイルの別々のページを横に並べて一つにする為の非常に単純な方法です。

- ・ オリジナルの書類が、境界線で向かい合って2ページに印刷する為の一つの記事か、アートワークである「スプレッド」を含む場面では便利です。
- ・ リンクとブックマークは、[2 ページ結合] を使用する事で、消失する事を覚えておいて下さい。

[2 ページ結合] が2つのページを一緒にするだけでも Acrobat の制限

(Acrobat4.0 では 200 インチ、5080mm) まで 3 ページ以上の書類を結合する為に繰り返し使用できます。

ページはマージンの変更無しに結合されます。スペースを削除するときは各々のページを結合する前に削除しておいて下さい。

より一層の柔軟性を求めるなら [手動面付け] が使用可能です。

偶数 / 奇数ページシャフル

偶数と奇数のページを別々に管理ができると便利な場合があります。

例えば、両面印刷を一度に片面しか印刷できないプリンターで印刷する時や、表と裏を別々に変更する場合などです。

[偶数 / 奇数ページシャフル] では 4 つの選択があります。

1. ページの順番を変更しない。
2. 最初に奇数ページ、次に偶数ページとなるように、この書類を並べ直す。この再配置を、元に戻す直接の方法はありませんので、オプションの「この書類を変更せずに新しい書類にコピー」にチェックを入れておいて下さい。
3. 奇数ページと偶数ページを別々に 2 つの新しい書類を並べ直す。
書類は別々に加工でき、必要なら再度結合できます。
4. 2 つの書類から互い違いにページを結合する。
3 番目の機能を使用して作成された偶数と奇数ページを含む、2 つのドキュメントを結合します。リストから開かれた書類を、2 つ選びます。

注：ページの組替えを行うと、リンクやブックマークが、正常に機能しなくなる可能性があるので注意して下さい。

ページ組替え

一般的に、この作業は [ページ割付] や [手動面付け] 等を、使用する前に行います。ここでは、入力されたルールに従ってページの順番の入れ替え、天地の反転を行います。

ルールを指定する前には実際に折丁を作成しページの順番や天地の確認を行うと、より分かり易くなります。

組み替えられたページを割り付けする場合、ページは、左上から配置され左から右に、そして上から下に配置される事に注意して組み替えルールを決定して下さい。

現在のルールでどのようなレイアウトになるのかは、プレビューボタンで確認する事ができます。

ページ組替えルール

最初にグループサイズを指定します。グループサイズとは面付け処理を行うページの単位です。

例えば 8 面付けなら表裏で 16 を入力します。

入力されたルールは、最後のページまで繰り返されます。仮に、書類中のページ番号がグループの数量と一致しない場合は空白ページが補充されます。

次にページ組替えのルールを指定します。例えば、右開き 8 面付けの場合、次のような指定を行います。(ページ間は半角スペースで区切ります)

「5 12 9 8 4* 13* 16* 1* 7 10 11 6 2* 15* 14* 3*」

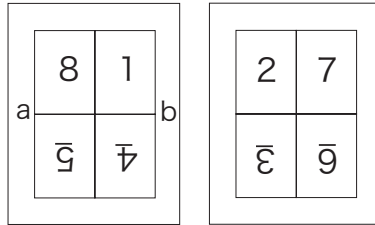
ページを上下に反転させる場合は、数字の後ろにアスタリスク「*」をつけ加えます。又数字の後ろに「>」を加えるとページを時計回りに 90 度回転させ「<」を加えると、反時計回りに 90 度回転させる事ができます。空白ページを任意の位置に挿入する場合は、数字の代わりに「x」を入力します。

ルールの指定は最大で 255 文字まで可能です。

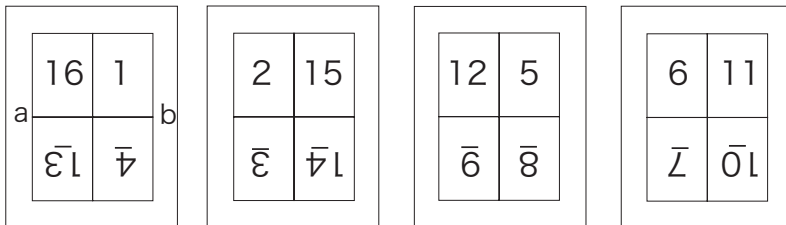
繰り返し

ページ組替えには「繰り返し」で平綴じ、中綴じ、片面の積み重ね、両面の積み重ね、から組替え方法を選択する事ができます。

4面付けの例(繰り返しの)中綴じオプションを使用してルールを設定します。一枚の台紙 から作成したブックレットの、表と裏のレイアウトです。



このシートはaとbの線に沿って折られ両面印刷となります。
 このルールは:8 1 5* 4* 2 7 3* 6* となり、グループサイズは 8 です。
 ページ数の多い小冊子に中綴じで、同じルールを適用すれば、何ページでも自動的に調整されます。例えば全16ページの場合、以下のようになります。
 各シートは別々にabの線に沿って折られた後、重ねる事を覚えておきましょう。



[繰り返しの]の中綴じオプションを選択した場合、どんなに多くのページが書類にあっても、グループサイズ 8 で同じルールが適用されます。

組替えアシスタント

ユーザーがページ数(行・列)を入力し、次に最初のシートの表面のページ番号だけを入力する事で可能にします。その後、一般的な中綴じ、平綴じ、積み重ね面付けの為に正確なルールを設定する事ができます。

第1のシートの表面のページ番号を入力して、どのように見えているか示す必要があります。(いくつかは、上下逆さまかもしれませんが)しかし、確定する為に、それらの数を知る必要があります。

入力した数字に間違いなければ、これを基に[組替えアシスタント]が処理します。

ページ番号を入力するとプレビューを見る事ができます。更に[詳細]をクリックすると他のページも見ることが出来ます。

[終了]をクリックすると、入力したページ番号に基づいた[組替えアシスタント]が実行され[ページ組替え]の画面に戻りルールの枠に記述が完了しています。ページ組替えの設定が完了します。

注: ルールを変更しないで下さい。

次に[OK]をクリックするとルールに基づいてページ組替えが実行されます。次のステップは、通常[ページ割付]になります。

組替えアシスタントを使った簡単な例

32ページの書類を中綴じにすると仮定した場合

- 1) [サンプル書類] から 32 ページ A4 を作成します。
- 2) コントロールパネルから [ページ組替え] を選択します。
- 3) 「組替えアシスタント」を選択します。
- 4) 列数: 2、行数: 1 を入力します。この場合、1 シート当たり 2 ページになります。(「ページ数」 32 を入力して下さい)
- 5) [次へ] をクリックして (シート 1 指定部分に) 32、1 をそれぞれ入力します。(この指定は、左開きになります)
- 6) [終了] をクリックするとページ組替えの準備が完了します。
ページ組替えの初期画面に戻ります。グループサイズを確認すると 4 になっています。(これは正確です: 変更しないで下さい。)
- 7) 「OK」 をクリックするとページ組替えを実行します。

組替えアシスタントを使ったより複雑な例

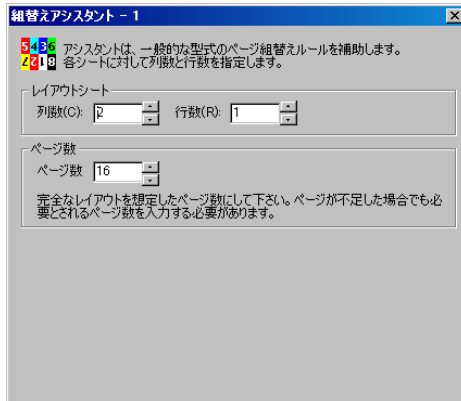
組替えアシスタントのページ数

組替えアシスタントにおいて、ページ数は、大変重要な要素です。なぜなら、組替えアシスタントは、最も高い番号（最終ページ数）を必要とする為です。

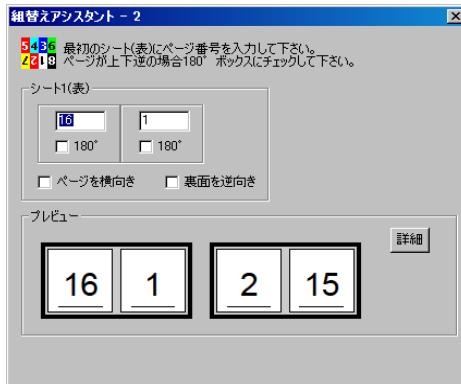
時に書類上のページが不足した場合でも、必要とされるページ数を入力する必要があります。

例えば、シートに2ページ分を横配置する場合、オリジナルが14ページの書類では、4枚のシートを必要とするので、この場合、完全にシートを満たす為に14ではなく16ページ（4の倍数）を持っていると組換えアシスタントに認識させなければなりません。

従って、不足するページの数を足して16と入力する必要があります。



上記の14ページの場合、次の画面で、16と1を入力する事になります。



注：1 ページと考えられないような場合でも、入力するページ番号は1からスタートしなければなりません。

いくつかの印刷物は、3 ページからスタートします。表紙などカバーを除いたページとなる為です。アシスタントを動作させる為に、それが1 ページであるかのように、3 ページを扱う必要があります。
この場合ページ番号から2を引いて考えて下さい。

ページ組替えオプション（繰り返し）について

面付け方法を選択する場合、オプションより、平綴じ・中綴じ・片面の積み重ね・両面の積み重ねから選択できます。

QI+ ではルールによりページをレイアウトします。

・ 平綴じ

先頭からルールを繰り返します。各グループは同じように順序が入れ替わります。面付けの用語としてグループとは、他のシートと綴じる前にまとめて折る複数のシートの事です。

・ 中綴じ

書類全体にルールが適用されるので、最後のページに最も大きい番号が使用されます。

・ 片面の積み重ね

折り重ねずに、正確な順番に結果を切り、積み重ねる事ができます。この場合は折りません。

・ 両面の積み重ね

1 シートごとに両面印刷を行ったシートを折り重ねずに、正確な順番に結果を切り、積み重ねます。

ページ組替え Tips

1. ページ組替えの他にもページを組替えるツールがあります。別々に偶数ページと奇数ページを分ける為に [偶数 / 奇数シャフル] を使用できます。2つの別々のファイルができますが、空白ページも追加されます。
2. ページの順番を入れ替える為に [ページを逆順に] を使用できます。
3. シーケンス上で、ページを見落とすと、警告メッセージが表示されます。「作業中の書類を変更するかわりに新しい書類を作成」を選択しておけば、シーケンスを使用できます。
4. シーケンスには2度以上同じページ番号が使用できます。しかし通常は間違っています。実行すると警告メッセージを表示します。続けると同じページを複製します。
「作業中の書類を変更するかわりに新しい書類を作成」にチェックが入っていれば実行できます。同じページをルールに定義すれば、各ページのコピーを作成できます。
5. [手動面付け] は、ページをあらゆるシートに配置する事ができます。
6. 各コマンドを実行した後に、[操作の記録] を使用すれば設定を保存できます。保存したコマンドは、シーケンスの中でも使用できます。

ページを逆順に

〔ページを逆順に〕は、単に書類のページの順番を逆にするだけです。元の書類をそのままにしておいて、ページを逆順にした新しい書類を作成するか、書類内でページ順を、再度変えるかという選択ができます。

ほとんどの面付けの機能で、リンクやブックマークは失われるか損傷を受けますのでご注意ください。

トリム & シフト

〔トリム&シフト〕を行う場合、最初にどのページで作業するのか選択します。全てのページでも、単ページでもページ範囲の指定を選択できます。また偶数ページのみや奇数ページのみ作業も選択が可能です。

偶数と奇数ページの両方を別々の方法で作業したい場合は、〔トリム&シフト〕を2度動かす必要があります。

また、元の書類を使用しないで新しい書類を作成する選択も可能です。

詳細設定オプション

〔トリム&シフト〕の最初のページの詳細設定オプションでは、次の2つのモードが選択できます。

通常設定

リンク、フォームフィールド、注釈はページと一緒に移動します。

ページの外にある内容も表示されます。

書き出した PostScript ファイルは正しく印刷されないことがあります。

改良設定

リンクなどは移動しないので不都合になることがあります。

ページの外にある内容は表示されず、新しいスペースは白く塗られます。

書き出した PostScript ファイルは問題なく印刷されます。

トリムオプション

トリミングは、ページの拡大も含みます。下記のオプションから選択が可能です。

- **すべてのページサイズを変更しない**

シフトのみの場合は、これを選んで下さい。

- **ページの周囲をトリミング**

どの「辺」からどれだけトリミングするのか選択して下さい。

- **ページの周囲に余分なスペースを追加**

ページを元のサイズより大きくできます。この場合新しい範囲の内容は空白が標準ですが、元々ページからはみ出たオブジェクトがある場所の結果は予測できません。

(Distiller がそのようなオブジェクトを、いくらか移動するかも知れませんが、全てではありません) 望ましくないオブジェクトがでてきたら、[マスキング] を使用して隠す事が可能です。

- **すべてのページを同じサイズにする**

ページは任意のサイズに合うように拡大されるか裁ち落とされます。存在するページは、中央揃えになっており、大きすぎると切り落とされます。

シフトオプション

次のオプションの中から選択が可能です。

- **すべてのページの内容をシフトしない**
トリミングのみの場合は選択して下さい。
- **固定量だけページの内容をシフト**
これは綴じの為に必要となります。

重要：偶数と奇数ページを別々にシフトする必要があります。方向（上下左右）とシフト量を選択して下さい。

- **量を変化させてページの内容をシフト**
方向を選択し、最初と最後のページのシフト量を選んで下さい。
全ての中間のページは比例してシフトされます。
- **雑誌用の折にあわせてページの内容をシフト**
紙の厚さに合わせて正確に綴じる為に使用します。
紙の厚さという意味は、真ん中に近いページは綴じられた本の端に、より近付きます「クリープ」と呼ばれます。

各グループ（または折丁）のページ範囲を入力し、折丁の内側と外側にページをシフトさせる量を入力します。これにより、動きの釣り合いをとる事ができます。例えば外側で3mmを選んで、-3mmを内側に選ぶといった事です。（数値がマイナスでもかまいません）

クリープアシスタントで折丁、シフト量、シフト位置を入力、選択できます。

リンクとブックマークについて

[トリム&シフト] はブックマークとリンクを残します。

新しい書類の作成をしないか、詳細設定オプションで「設定 1」を選べばブックマークとリンクを残します。

「トリム&シフト」で、ページのサイズを変更でき、ページの内容を移動できます。

標準のトリミング機能と比較します。

(文章・ページのトリミング)

機 能	トリミング設定	トリム&シフト
トリミング	はい	はい
トリミングを戻す	はい	はい
ページサイズを大きくする	いいえ	はい
偶数/奇数ページを別々に処理	はい	はい
一度に1つ以上の辺の処理	はい	選択可能
視覚的な確認	はい	いいえ
ページ上の画像のシフト	いいえ	はい
オプションとして新しい書類を作成	いいえ	はい

裁ち落とし

QI+ ではページ割付、丁付け、手動面付け、そしてブックレットといった全ての面付け環境で裁ち落としの設定ができます。

裁ち落としのダイアログを開いて現在の書類に適用されるように裁ち落としを設定して下さい。そこで裁ち落としについての面付け情報がページに添付されます。面付けの機能は、この面付け情報を使用してどのように台紙にページをレイアウトするか決定します。

ページに設定された裁ち落とし範囲があれば、常に裁ち落としの表示領域には、外側と内側があります。

内側は面付けの基本となる範囲の事です。例えば割り付け工程では、全ての計算は裁ち落とし表示領域の内側を基にしています。

裁ち落とし表示領域の内側はトンボとともに整列されます。

似通った事で、[手動面付け] では、裁ち落とし表示領域の内側は入力した位置に揃います。

裁ち落としは [ページ割付] や [丁付け] を使用する時にはオーバーラップしません。これは自動で制御されオーバーラップを予防する必要はありません。しかしながら、[手動面付け] では、オーバーラップが発生します。

裁ち落としは現在のところ QI+ で使用される場合を除いて、ページが直接出力される場合は無視されます。

裁ち落とし設定・削除

1. 「全ての辺に等しく裁ち落としを設定」
4つの端全てに適用されます。ページ間が0の場合には、通常適切ではありません。
2. 「折に使用する辺を除いた3辺に塗足しを設定」
折りたたみの端は、偶数ページの右と奇数ページの左です。
3. 「4辺それぞれ裁ち落としを設定」

裁ち落としは各ページの見える範囲の端にあり、上記の3つそれぞれで「現在の表示領域よりも外側に塗足しを設定」を選択できます。

通常は、この選択で裁ち落としを設定する事が可能になります。

裁ち落とし領域は、MediaBox（典型は元のページサイズ）より、大きくは設定できませんから、以前にページの裁ち落としを行ってれば意味のある事です。

4. 「CropBoxを裁ち落としの内側に、MediaBoxを外側に設定」
CropBoxはページの見える範囲です。
MediaBoxとは通常裁ち落とされる前の元のサイズです。
裁ち落としを直接裁ち落としに変換させる良い方法です。
5. 「選択したページから裁ち落としを削除」
設定を削除します。

空白ページの挿入

〔空白ページの挿入〕機能は製本の目的で空白ページを書類に追加する為に使用されます。現在のページの前か後、指定ページ、現在の書類の始めか終わりに、1ページ以上の空白ページを追加することができます。

新しく作成するページの、希望するサイズを選択できます。現在表示されているページと同じサイズを使用するオプションがあります。

カスタムサイズ作成の、PDF ファイルを選択する事も可能です。この場合、挿入されるページは空白でない可能性があります。

サンプル書類

〔サンプル書類〕は番号の付いた新しい書類を面付けと折丁の為に作成可能です。面付けには練習が必要とされます。テスト書類が作成できるのは「面付けの練習に」有効な機能です。

サンプル書類を選ぶと、ページサイズとページ数を選択できます。サンプルの各ページは明るいグレーで太い線と大きなページ番号が付いています。

各ページは、端から 20mm のところに線がついていますので、出力する際に、ページが裁ち落とされたかどうか、ページがどれくらいシフトされたか確認できます。

文字列 / 番号を貼り付ける

書類に文字列ページ番号を付加します。
以下のオプションを選択して下さい。

番号

ページ番号を付加します。

- ・開始番号にゼロを付加できます。(例 0001,0010,0100)
- ・フォントのリストは Acrobat に組み込まれており、現在は拡張できません。
(標準日本語フォントが使用できます。)
- ・番号を付加する位置
これは4つの角のいずれか、または上か下の中央です。
- ・位置の数値入力
追加する最初のページ番号(書類内の、表示しているページ番号) ページ番号を省略し、ただテキストを追加する事も可能です。
- ・ページ数
偶数ページを処理するのか、奇数ページか、それとも両方か、を選択できます。
偶数 / 奇数ページ用に異なる位置に番号を配置できます。

注：一旦番号が貼り付けられると、それらは、書類の一部であり、書類と一緒に出力されます。但し「ページ番号を剥がす」機能を使用すれば、ページ番号を外す事が可能です。

仮に、付いている番号を外す必要があれば、[マスキング] で隠す事も可能です。

ページ番号を貼り付けるではフォントを埋め込む事はできません。

文字列

文字列だけを付加します。

双方

ページ番号と前置文字列、後置文字列を付加します。

項目

コンピュータ名、ディレクトリ名、ファイル名(全て、省略名)、日付(各種)
書類タイトルを選択付加できます。

詳細設定オプション

ページ番号と前置文字列、後置文字列を付加項目より選択する事ができます。

[ページ番号] を使用して番号と同じようにテキストを追加する事が可能です。
例えば、番号の前に「Page」と付加できます。

これにはスペースが含まれます。「番号なし」にチェックを入れる事で、テキストのみが追加できます。

レジストレーションカラーの使用

番号を含むテキストを追加する時「ブラックではなくレジストレーションカラーを使用」が選択できます。

マスキングテープを貼り付ける

マスキングテープはオブジェクトを隠すのに使用される特別なテープです。QI+ ではページの一部を隠す為に、電子テープを貼れるようになっています。典型的な使用方は [ページ番号] で新しい番号を付ける前に存在するページ番号を隠す事です。

[マスキング] を選択するとウィンドウが現れます。

このウィンドウは移動できますので、他のメニュー選択やボタンを使用できます。選択されたウィンドウ上で、どのページをマスキングするか選択します。多くの場合、マスキングテープを 1 つのページに貼り付けて、全てのページ、ページの範囲を指定します。もしくは偶数か奇数のページの同じ場所にテープを付加できます。

マスキングテープのツールを使用

[マスキング] ツールはマスキングテープのウィンドウが開かれていれば使用が可能な状態です。マウスカーソルが、テープリールに変更されます。

マウスを押さえて長方形のアウトラインを作成するようにドラッグして下さい。赤い外枠の、白の長方形が現れます。赤の外枠は作業中は消えず、テープを適用した際に無くなります。

好きな数だけのテープを適当な位置に置けます。

間違ったらマスキングテープウィンドウの「元に戻す」ボタンをクリックして下さい。最後のテープが削除されます。

テープの位置に問題が無ければ、「適用」のボタンをクリックして下さい。赤のアウトラインは消えて、テープは選択された全てのページに適用されます。

「元に戻す」をクリックすれば最後に適用した一連の長方形に戻ることができます。

文字列 / 番号を剥がす

〔文字列 / 番号〕機能を使用すると、文字列とページ番号を削除できます。場所を変更する場合に使用します。

どちらの場合でも、「文字列 / 番号」を選択し、現在のページ、全てのページ、もしくは指定範囲のページから、文字列とページ番号を削除する選択ができます。

注意点

1. QI+ の〔文字列 / 番号〕で追加したものを削除する事が可能で、他の製品で追加されたものは削除できません。

2. 〔文字列 / 番号〕は特別な見えないマーカーを PDF ページに付けますので、「文字列 / 番号」を剥がすはマーカーを見つけ削除します。

Acrobat のタッチアップツールは、マーカーを削除し、「ページ番号を剥がす」作業を妨げます。

3. 他の面付け機能を動かした後でも、文字列 / 番号を削除する事が可能です。選択されたページの全ての文字列 / 番号は削除されます。

トンボを剥がす

トンボ・フレームを総称してマークと言います。

マークは [ページ割付]、[丁付け] や、[手動面付け] などの機能で追加する事が可能です。

「トンボを剥がす」を使用するとこれらのマークを単ページか選択範囲のページから削除する事が可能です。

選択されたページの全てのマークが削除されます。

注：トンボを剥がす

QI+ の機能で追加されたマークのみが削除され、他の製品で追加されたマークは削除できません。

QI+ は特別な見えないマーカーを PDF ページに付けます。

Acrobat のタッチアップツールは、マーカーを削除し、「トンボを剥がす」作業を妨げます。

マスキングテープを剥がす

[マスキング] 機能を使用すると、「マスキングテープを剥がす」機能を後から使用する事が可能です。

現在のページ、選択範囲のページや書類の全てのページから、テープを剥がす事が可能です。特定のページにある全てのテープは削除されます。

注：ページ上の何枚かあるテープの中の一枚だけを剥がす事はできません。

手動面付け

[手動面付け] は QI+ の中の最も融通の利く機能です。どのページでも他のどんなページ上にも重ねられます。

注：混乱を避ける為に、面付けのターゲットをページと言わずにシートと呼びます。

[手動面付け] では次の設定が可能です。

1. ターゲットシート

これは追加を行う書類です。

通常は空白シートがターゲットとして作成されます。ターゲットは、この書類にある特定のシートで、簡単に次のシート（必要なら作成します）に移動できます。ターゲットはバックグラウンドの PDF ファイルも選択できます。新しいページは [次 / 新しいシート] で次々と作成されます。

2. ソース

貼り付ける側のページです。

ソースは書類の特定のページです、ページを追加するとページ番号は自動的に増えます。いつでもソースは変更できます。

3. ソースのオフセット

シート上新しいページのオフセットを設定します。

回転と縮尺、そしてトンボ付加するかを設定します。（カスタムでスタイルを変更できます）

4. [ページの追加] でページを配置します。

設定の変更ボタンで以下の選択ができます。

- ・トンボの色（色分解出力する場合）
- ・フォームフィールド 注釈を無視及び保持の選択
- ・PDF/X ステータス 無視か保持の選択
- ・裁ち落としサイズの扱いを選択（crop 使用、trim box 使用、プロンプト）

手動面付けの注意事項

1. ページの配置を間違った場合は、面付けウィンドウの上にある [面付け情報] ボタンをクリックして下さい。間違ったページを選択し、[削除] をクリックする事で、貼り付けたページだけを削除できます。

[手動面付け] に戻る為に [手動面付け] をクリックして下さい。

2. ページを重ねた場合の結果を予想するのは、簡単ではありません。あるページが白バックの場合、下のページを完全に覆い隠します。
3. どのような順番にでも面付けできますが、ソースは正しい順番に (1 ページから順に) 提示されるので、先に [ページ組替え] を利用しページ組替えを行って [手動面付け] を使用するのが効率的です。
4. ほとんどの面付け作業の為に [ページ割付] は使用できます。時には異なるマージンでグループに面付けする為に、一度以上作動させる必要があるかもしれませんが、それでも [手動面付け] より効率的に作業が行えるでしょう。
5. どのような目的に対しても PDF ページを結合する為に、[手動面付け] を使用できます。

あらゆる縮尺でどのような書類のシートにでも面付けができます。面付けされたページは、修正された書類の一部となり、それは表示され、出力されます。

大きなイメージを縮小する時には注意して下さい。小さく見えますが、同じディスクの容量を占めます。

例えば、1つの書類上に、一部分差し換えが有る場合でも、[手動面付け] を使用する事で、特定の部分だけを変更する事が可能です。

面付け情報

レイアウト

〔面付け情報〕は、面付けされたページを含むシートの情報を表示します。ページを面付けすると、QI+は、元のファイルがどこにあったか、また元のページ番号等を保存します。

情報はできる限りの正確さで、元の書類上で得られます。

正確な情報を得る為には、環境設定の「基本的な操作に関する情報を保存」に必ずチェックして下さい。

詳細な情報を見る為に、リストからページそのものを、クリックして下さい。ページは強調され、作成日や面付けの時間といった情報が表示されます。

「別のツールが選択された際にこのウィンドウを閉じる」が選択されている場合、QI+のウィンドウは閉じられます。

選択されていない場合は、「情報ツールの選択」ボタンが表示されます。ボタンをクリックする事で、面付け情報画面に戻ります。

コマンド

面付け時に使用されたコマンドを見る事ができます。

「XML エクスポート」を使用する事で、コマンドをXMLに書き出せます。

面付けページの修正

[面付け情報] からページを選択すると、[抽出][削除] という2つのボタンが利用できるようになります。

[削除] は、面付けからページを削除します。この機能は、「元に戻す」事はできませんので、注意して下さい。

現バージョンでは、「ページの削除」はトンボを削除しません。「トンボを剥がす」を使用して下さい。

[抽出] をクリックすると、ページを抜き出すダイアログボックスが表示され、選択したページのみ、もしくはこのシートすべてのページが選択可能です。また新しい書類に抽出するのか、既存の書類の最後にページを追加するのかを選択可能です。

注：抽出されたページで作成された書類の容量は元の書類より時には何倍も大きくなります。

「抽出」は、通常のワークフローとしてではなく、元の書類が失われたりした場合の、最後の手段として使用して下さい。

PDF/X の扱い

(デフォルト環境設定によって)QI+ はすべての面付け機能中の PDF/X データを保持する為に動作します。PDF/X-1a 及び PDF/X-3 の両方がサポートされます。QI+ はプレフライトツールや変換ソフトではありませんが、動作するファイルの PDF/X の状態をチェックします。例えば、PDF/X-3 ファイルからのブックレット面付けが PDF/X-3 ファイルである事が確認できます。

既存の PDF/X-3 ファイル上に PDF/X-1a ファイルを、[手動面付け] する事は避けるべきです。

注: Acrobat で動作する制限として、編集されたファイルは使用 Acrobat の PDF バージョンで保存されます。

PDF/X ファイルは PDF バージョンに関する制約があり、QI+ で PDF/X 情報を保持しても、バージョンに関する制約は回避できません。

QI+ が PDF/X を扱う際には、PDF/X 情報を保持する事ができます。PDF/X について理解が深く、重要でない判断された場合、環境設定を PDF/X を無視に設定できます。(デフォルトは無視です)

PDF/X であるかどうかを判断する為に、PDF/X の扱いオプションをオンにした場合、QI+ は処理される各ファイルを検査します。

PDF/X であった場合、面付けされたファイルは、PDF/X 情報を保持しています。

Acrobat のバージョンにより編集された PDF のバージョンは変更されます。(最終段階に PDF/X として無効となる場合があります)

QI+ では PDF バージョンが変更される事を防げません。

このオプションを選択する事は、特定の動作を無効にするケースがあります。例えば、PDF/X 保持が選択される時、PDF/X ファイルの為にページ番号を貼り付ける機能を使う事ができません。PDF/X は埋め込まれたフォントを必要とし、QI+ はナンバリング用の埋込みフォントをサポートしていない為です。

その他の制限としては、PDF/X ファイルを面付けする為に、PDF/X ではないファイルをバックグラウンドとして使用できません。

これらの制限の為、PDF/X 保持は、デフォルトではオフとなっています。

自動化シーケンス

シーケンスダイアログは、ユーザーが面付けコマンドを組み合わせ、名前をつける事を可能にします。ユーザーはプロンプトの表示非表示により、その結果としてユーザーは、シーケンスを再利用する事ができます。

シーケンスは、QI+ 2以降で作成された面付け済みPDF ファイルからもインポート可能です。

シーケンスは、XML ファイルによってエクスポート及びインポートされます。つまりシーケンスは共有、又はバックアップできる事を意味します。

- ・ 複数の面付けコマンドを結合して記録できます。
- ・ プロンプトの有無を選択してコマンドを実行して下さい。
- ・ 1つの面付けされたPDF をモデルとし、他の面付けにも流用します。(ここでは面付け例とします)

コマンドシーケンスの記録をアレンジし、他のユーザーと共有する為にエクスポートできます。

面付け情報により、使用されるコマンドリスト、及び全てのオプションを参照できます。

直接自動化シーケンス機能によりコマンドを同じように使用できます。

現在の書類からシーケンスを作成する機能は、現在の書類からコマンドをエクスポートします。

シーケンスに名前を付け保存します。念の為毎回コマンドオプションを見る事をお勧めします。

シーケンスは、ページの正確なレイアウトではなくコマンド、及びオプション選択を格納しています。

例えばシーケンスを利用する場合、全てのページ数とサイズが問題となります。実際にコマンドを実行したように、シーケンスに格納された動作が行われます。

いくつかのコマンドには、制限事項があります。

一般的には "現在の書類" に面付けオプションを定義せず、新しい書類に対し定義して下さい。

新しいシーケンスを作成する為に、新しいシーケンスボタンをクリックします。

左側にコマンド、右側には空欄のウィンドウが表示されます。

左側でコマンドを選択し、それを右に動かす為に追加ボタンをクリックします。

[次へ] をクリックする時、右の全てのコマンドは、新しいシーケンスを作成します。

例えばブックレットのシーケンスを作成する場合、ブックレットの設定画面が表示します、しかしブックレットは作成されません。

選択オプションを単に選択しているだけで、実際のコマンドは動作しません。

名前の左側の記号をクリックすると全てのコマンドオプションが表示されます。

除去ボタンは、コマンドを削除します。

[上に移動] [下に移動] は、コマンドリストを整理する事を可能にします。

[編集] は、コマンドオプションを編集する事を可能にします。

シーケンスを管理する方法があります。

シーケンスを編集し名前を変更する事を可能にします。

削除をクリックする事でシーケンスを削除できます。

共有やバックアップの為に、XML ファイルとしてエクスポートできます。

インターフェースモードを変更できます。

- ・「標準」 ダイアログとプロンプトを表示し、正確に実行される事を意味します。
- ・「高速」 ダイアログを表示しません。
ダイアログが出ない為に、確認に不備が出来る可能性があります。
- ・「バッチモード」 高速と似ています。メッセージやプロンプトを表示しません。
- ・「プロンプト」 の選択は、ダイアログが表示しないかわりに、指定したテキストが表示されます。チェック用として利用されます。

例えば、そのプロンプトは、「〇〇会社用です。」等です。

ここでユーザーは取消を選択できます。

新しい書類の選択

新規書類の選択は、QI+ の多数のコマンドで利用可能です。

全てのケースにおいてコマンドを実行する時、任意で選択できます。従ってコマンドシーケンスを作成する時も、任意で利用できます。

デフォルトの高速モードにおいてシーケンスを実行している時、有用な選択となります。

これは、面付けされたファイルがオリジナルの開かれた書類にかわって処理される事を意味します。

オリジナルの破損を防止する為に有用で、オリジナル書類を保存していない場合には利用される事をお勧めします。

QI+ で作成された XML のみ読み込む事が可能となります。

自動化シーケンスからエクスポート機能を使用する事により作成されます。

QI+ の作業環境を揃える為に、XML をインポートする事ができます。

インポートオプション

- ・ 現在の書類からインポートします。
- ・ 他の PDF 書類からインポートします。
- ・ XML ファイルからコマンドをインポートします。
- ・ バージョン 1.x からのコマンドをインポートします。

これは ver1.6 までの QI+ バージョンにおいて操作の記録によって作成された情報をインポートします。

カテゴリ

各シーケンスの為にカテゴリ及び名前を表示します。

少ないシーケンスを管理する場合、新しいカテゴリを作成する必要はありません。デフォルトのみ使用する事ができます。

更に多くのシーケンスを使用される場合、カテゴリのリストの中から新しいカテゴリの追加を選択して下さい。

カテゴリを使って作業をする為の Tips :

- ・ カテゴリを直接、削除する事はできません。但し、カテゴリの中に名前を付けて登録されている全てのシーケンスを削除すれば消す事ができます。
- ・ 誤ったカテゴリの名前を削除する為にこの操作を行うと、シーケンスが削除

され登録されたシーケンスが失われます。

- ・ 1つのシーケンスを別のカテゴリへ移動させる為には、シーケンスをエクスポート（XML 書き出し）した後、別の異なるカテゴリを選択してインポートします。
- ・ カテゴリの名前を変更する為には、一旦、変更するカテゴリを全て XML ファイルにエクスポート（書き出し）し、その後、新しいカテゴリにインポート（読み込み）します。

XML ファイルのインポート

名前を変更するカテゴリをカテゴリ欄に表示し [インポート / エクスポート] で [エクスポート] を選択して [エクスポート 選択] より [選択されたカテゴリを全てエクスポート] を選び XML に書き出します。その後、[インポート / エクスポート] で [インポート] を選択して [インポート 選択] より [XML からコマンドをインポート] を選び書き出した XML を読み込みます。

次の画面で、[カテゴリの選択] を選びプルダウンメニューから [新しいカテゴリ] で改名した名前ですべて保存します。インポートは、シーケンスの初期画面のカテゴリから [新しいカテゴリ] を選んでカテゴリを追加した状態のものにインポートさせる事もできます。

古いカテゴリに登録されている全てのシーケンスを削除し、古いカテゴリが消去できます。

これら全てのシーケンスは、「qiplusmemory.xml」という XML で記述されたファイルで保存されます。